

## 定例市長記者会見録

日 時：12月25日(水) 午後1時30分～2時5分

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長

報道機関 朝日新聞、中日新聞、読売新聞、NHK

本日の案件は三つです。

1番目は「一宮七夕まつり『学生サポーター』を募集します」です。

2025年に第70回を迎える七夕まつりを、学生サポーターの若い力で盛り上げていただけることを大いに期待しています。

学生サポーターの経緯について、七夕まつりが始まった頃にはミスター七夕やミス七夕・ミス織物を選出して、まつりを盛り上げていただいていた。ミスター七夕は、2年ほどで無くなりましたが、その後はミス七夕とミス織物という形で毎年ミスコンテストを開催し、2019年まで続けました。2020年のコロナ禍で七夕まつり自体が中止となり、続く2021年もオンラインでの開催でしたので、リアルな場でのまつりができずミスコンテストも開催しませんでした。このような状況下で、七夕まつり自体を時代の変化に合わせてどうすべきかということをいろいろと検討し、比較的盛大に開催できるようになった2021年(第66回)のタイミングでミスを廃止し、代わりにこの学生サポーターの仕組みを導入しました。

報償費は、1時間につき1,206円を支給させていただく予定です。活動内容については、七夕まつり期間中に学生サポーターの皆さんで独自の企画を提案し運営してもらいます。それ以外のPR活動として、インスタグラムなどSNSの管理運営を七夕まつりの開催期間前から実施していただいたり、愛知県知事などを訪問して、七夕まつりのPRをしていただいたりします。他にも、今までアプローチしていなかった大学などにもポスターやチラシを持って行ってPRしていただくなど、第70回では例年以上に力を入れて協力していただける体制を構築できればいいなと考えています。

2番目は「マイナ保健証で救急時医療情報閲覧の運用開始」です。

一宮市立市民病院で今年度中に運用を開始します。また、総合大雄会病院でも年度内に始めると聞いています。マイナンバー保険証になり、患者さんの医療情報などがデジタルで閲覧できるようになっています。しかし、実際に救急車で搬送されるような本人の意識がもうろうとしている場合や、障害があって同意を得るのが困難な場合などには、マイナンバーカードの4桁の暗証番号を入れていただくことができません。そこで、こうした時には同意がなくても、医療機関・救命救急センターの方で患者の命・身体・健康を守るために必要と判断すれば、医療情報が閲覧できるようになります。今でもマイナンバーカードがあれば医療情報を見ることができますが、今後、厚生労働省によるシステムの見直し

により、氏名・生年月日・性別・住所または保険者名称などの情報で検索ができる機能を追加する予定だと聞いています。厚生労働省としては、緊急時にマイナンバーカード（マイナ保険証）が手元にないという事態も想定して、システムの準備をしているということです。

クリニックでも患者の同意があれば、医師は特定健診・診療・薬剤・電子処方箋の過去5年分の医療情報を見られますが、情報量が多すぎて一刻一秒を争うケースでの閲覧には不向きです。このため、厚生労働省に「救急用サマリー」という医療情報を簡潔にまとめた閲覧ページを準備していただきました。この「救急用サマリー」の閲覧で、受信歴は直近3ヶ月間、電子処方箋情報は直近45日間といった具合に、最近の必要な情報だけを得られるようになります。これにより、医師が手術をする際に、気をつけなければいけない薬や最近行った施術の確認などが素早くでき、よりクオリティの高い医療の実現が期待されます。市民の皆さまからは、マイナンバーカードのメリットがなかなか実感できないというご意見もいただきますが、医療のデジタル化によって、より安心な体制や環境が整うということを少しでも知っていただければという思いで、市民病院と総合大雄会病院の取り組みを紹介させていただきました。

3番目は「2024年 市長表彰・年間 MVP が決定しました」です。

こちらは一年を振り返るという趣旨にもなります。上半期と下半期で半年ごとに表彰を行い、下半期のタイミングで年間を通した MVP を1件選定し表彰式を行っています。今年度は、12月24日の幹部会議の後に下半期の市長表彰と年間 MVP の表彰を行いましたので紹介します。

まず、上半期の市長表彰で、対象事業は5件です。

- ・総務部 情報システム課「『国・地方デジタル共通基盤の整備・運用に向けた検討体制構築準備会合』への参画」

デジタル庁の会議で、全国市長会を代表して一宮市が参画しました。

- ・市民健康部 市民課「『いちのみや駅ナカプラザ』の開設」

一宮駅でパスポートやマイナンバーカードの業務に対応するという一方で、i-ビル1階にオープンしました。

- ・福祉部 福祉総務課「非課税世帯等に対する各種給付金支給業務」

プッシュ方式での給付金の支給を採用しました。該当者に申請書を送って紙に書いて申請してもらうのではなく、必要な所得情報や口座情報が分かっている方の手間を省いて素早く給付金を振り込むことができました。

- ・環境部 収集業務課「子ども服リユース事業『いちみんクローゼット』の開設」

子ども服のリユース事業で、市内4カ所で開設し大変ご好評いただいています。

- ・教育部 総務課・学校教育課「水泳授業委託事業 ～水泳の授業を民間のスポーツクラブで～」

学校の水泳の授業を民間のスポーツクラブに委託するという内容です。今年度は1

校だけですが、初めての事業をスタートさせました。  
続いて、下半期の市長表彰で、対象事業は6件です。

- ・総務部 情報システム課「全国自治体 DX 推進度ランキング 2024 第2位」  
時事通信社さんの独自のランキングで、全国2位になりました。
- ・財務部 資産経営課「管理している解体予定施設の有効活用」  
解体予定の旧中央看護専門学校と旧市民病院今伊勢分院について、愛知県警察から訓練の場として使わせてほしいとの依頼に応じて提供することで、不用施設を有効活用しました。
- ・保健所 保健衛生課「『ネコのバス』による譲渡会及び動物愛護啓発イベントの開催」  
NPOの皆さまにご協力いただき、大変ご好評を得ています。
- ・議会事務局 議事調査課「市議会議場及び委員会室における音声認識システムの導入事業」  
人が話をした時にその言葉が文字として表示されるというシステムです。耳の聞こえに不安がある方にも開かれた議会ということで進んだと受け止めています。
- ・教育部 学校給食課「東浅井給食センター整備運営事業」  
一宮市初のアレルギー対応ができる施設で、9月から運用を開始しています。
- ・消防 通信指令課 今井 政敏「消防で使用する携帯電話等の更新事業」  
個人での表彰で、役職定年で60歳を過ぎた職員が消防の通信指令課に異動して、その中でしっかり仕事をして活躍しています。これから順次65歳まで定年が延長していきますが、先行事例の模範ということで表彰させていただきました。

市長表彰は以上です。

全体では下半期の「全国自治体 DX 推進度ランキング 2024 第2位」を MVP に選びましたが、DX が進んでいるといっても市民の皆さまの体感としては、まだ誇れるとまでは言えないと思いますので、新年以降もみんなで頑張りましょうという期待を込めて年間 MVP とさせていただきます。

私からの説明は以上となります。

## 質疑応答

### ■マイナ保険証で救急時医療情報閲覧の運用開始

(記者) 運用開始は県内で何番目ですか？また、他の医療機関の状況は？

(市長) 救命救急センターが設置されている医療機関は、愛知県内に24あり、市内では、市民病院と総合大雄会病院の二つです。

まだ市民病院が3月のいつから始められるかという具体的な日にちを確定できていません。また、非常に良い取り組みなので、おそらく他の救命救急センターもできるだけ早く導入しようと動いていると思います。このため、県内で何番目に運用

を開始するののかというのは、今の時点では断定できません。また、12月9日から全国10数カ所で運用を開始して、来年3月末までには550カ所くらいに増える見通しという報道もありますので、救命救急センターを設置していない医療機関でも導入を検討しているところもあるという状況です。

#### ■2024年 市長表彰・年間 MVP が決定しました

(記者) 資料の市長表彰の事業に付けられている番号は、順位ですか？

(市長) 便宜上、番号を付けているだけで、これは順位ではありません。

(記者) 「消防で使用する携帯電話等の更新事業」とは、簡単に言うとどんなものですか？

(市長) 消防で使う携帯電話等の契約を見直しました。これまでは複数の携帯会社との契約で、機種本体も買い取っていましたが、契約を1社にまとめて、さらにリースにすることでコストカットができたという事例です。年間で30万円くらいの減額になりますので、例えば10年単位で見ると300万円くらいのカットができることとなります。

(記者) MVPの「全国自治体DX推進度ランキング2024 第2位」の理由は何ですか？

(職員) もともと総務省が毎年調査している「地方公共団体における行政情報化の推進状況調査」の結果を基に、時事通信社さんが独自にランキングを行っているもので、特定の取り組みというより市全体でのDXへの取り組みが評価されたと考えています。

(記者) 例えば、県内でも珍しい取り組みや具体的に進めていることなどはありますか？

(市長) ランキングの評価項目は「フロントヤード改革」や「デジタルデバインド改革」などいろいろありますが、一宮市の評価が高かった項目は「自治体DXの推進体制等」です。推進体制に関しては、今年7月に一宮スマートシティ推進協議会(愛称:i-スマ)を立ち上げて、名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター長の白鳥教授に協議会長に就任していただいています。また、名古屋鉄道㈱さんや中部電力㈱さんなど名だたる企業にご参加いただいていることや、事務局としてアクセンチュア㈱さんの業務支援もあるというのが大きいと感じています。DXの推進体制はできていますが、この体制で何をどうするべきかというのはこれからになりますので、未来の希望や期待を込めて評価をいただいたと受け止めています。

#### ■その他

(記者) 児童虐待について、一宮市と愛知県の児童相談所との間で情報連携に関する課題などはありますか？

(市長) 日ごろから県と協調体制をとって、しっかり意思疎通を図るよう取り組んできています。市の組織の中でも関連部署で情報共有ができるデータベースを作って活用しています。

今は「189(いちはやく)」で通報できる児童相談所虐待対応ダイヤルができたことで、報告件数自体はとも増えています。当然、市の担当部署もたくさんの案件

を抱えるようになって忙しくなり大変ですが、未然に防ぐという観点からは「189」で多くの虐待と疑われるケースが行政に持ち込まれるようになったことは良かったと受け止めています。相談件数が大幅に増えていますが、それでも職員が頑張っ  
て対応してくれています。悲惨なケースが市内で起きないように職員もしっかり肝に銘じて取り組んでくれていると思います。

(記者) 今年の衆議院議員選挙では愛知 10 区が全国でもまれに見る激戦区で、結果は3人の立候補者が全員当選しましたが、3人の議員に何か期待することはありますか？

(市長) 地域の実情を国に伝えていただいて、ぜひ国政で政策の企画立案に反映していただきたいという期待はあります。